



◆イベントがあると、ほっとします



いわて生協  
組合員 佐藤 サチ子さん

仮設住宅は狭いので、どうしても自宅で過ごすにはいきません。このような音楽などのイベントがあると、ほっとしますね。本当に楽しかったです。

今日は12月18日で、発災から早くも9カ月が過ぎています。今でも仕事や生活で困ったこと、不安なことはたくさんあります。

たとえば仮設住宅にはお仏壇を置けません。おうちでご供養ができないのは寂しいですね。

それから、仕事がないので若い人たちは都会に出て行ってしまい、過疎化が一層進むのも心配です。

不安の多い中、生協の役割は大きいと思います。これからも、生協がイベントや毎日の生活に密着した活動を続けてくださり、地域を明るくしていただけると、うれしいですね。

## みんな笑顔で民謡を楽しもう！

～いわて生協・歳末コンサート～



全国の民謡を演奏する、「みらいみんよう」の皆さん。

12月17日と18日、いわて生協は「みらいみんよう」のプロジェクト※1メンバーによる歳末コンサートを開催しました。17日の綾姫ホール（大船渡市）、18日のグリーンピア三陸みやこ（宮古市）とも仮設住宅居住者を中心にたくさんの方が来場しました。今回は唄、三味線、日舞、尺八、鳴り物などで、地元・岩手の外山節をはじめ、ソーラン節や大漁うたいこみなど全国の民謡が演奏され、200人を超える来場者は、手拍子を打ちながら聞き入っていました。終演後は、会場の外で甘酒とおしるこの振る舞いもありました。

グリーンピア三陸みやこで、開場1時間前から友達と並んでいたという女性は、「仮設住宅は狭いし、おしるこを作る気も起こらない。おいしくて、ほっとしました。来てよかったです」と笑顔を見せていました。いわて生協の組合員理事・香木みき子さんは、「皆さんが笑顔で帰ってくれて、うれしかったです。地域を元気にするために何ができるかを考えて活動しています。『かけあしの会』※2で、被災された方の仕事づくりのために新製品の開発もしているんですよ」と話していました。

※1 民謡を未来の世代へ伝承するためのプロジェクト。三味線の松田隆行さんなどが参加。

※2 香木さんが所属する、復興プロジェクト。



年末の炊き出し風景。

### 年末年始に炊き出しも実施

「いつもならにぎやかなはずの年末年始に、ひとりぼっちで寂しい思いをされている方も多くいます」といわて生協・前副理事長の佐々木みどりさん。いわて生協では、年末年始（12/29・30、1/7・8）に仮設住宅18カ所で、炊き出し活動を行ない、多くの方が、温かいカニ鍋やきなこ餅に舌鼓を打っていました。

### ◆福島からのメッセージ 郡山市で生きるために



郡山医療生協除染活動の様子。

私たちは「郡山市で生き続けたい」と考え、「線量マップ」の作成に力を入れています。除染のためには正確な放射線量の測定と公表が不可欠です。そこで職員や組合員に線量計を渡して市内1万カ所以上を測定し、線量マップを作り上げました。マップを基に、線量の高い所を重点的に洗い流し、芝生を剥がすなどの支援をしてきました。また、マップを町内会やPTAに提供しました。

現在では、全国の医療福祉生協の支援により、郡山医療生協26支部すべてに線量計を配置し、線量計の貸し出しも行なっています。

今後は「いつでも誰でもどこでも」自分の体内や食べ物の線量測定ができ、注意事項や生活スタイルを考えられるように、計測器を整備しつつ、住民学習会の機会を増やします。また、子どもの筋力づくりやストレス解消のための「遊び場づくり」も推進していきます。

(放射線に対する取り組みについて、郡山医療生協専務理事の宮田育治氏に伺いました。)

## 全国の組合員理事、福島に集結

12月5・6日、日本生協連主催の「コープふくしまと被災地訪問企画」が行なわれ、全国から26生協43人の組合員理事らが福島を訪れました。これは、福島の実情を知り、今後継続した支援を行なう上で何が必要となるかを考える交流企画です(いわて生協では8月、みやぎ生協では9月に実施しました)。

コープふくしまからは24人の組合員理事・役職員が参加し、全国からの参加者に、震災当時の状況や現状について報告しました。2日目は、バスで福島県沿岸部被災地を視察したほか、現地の産地団体の話を聞いたり、コープふくしまの店舗などを見学したりしました。

富山県生協組合員理事の榊原礼子さんは「帰ったら、今回の訪問をみんなに話し、私たちも息の長い取り組みができるよう努力していきたい」と話していました。



夕食懇親会では、各生協が寄せ書きや手作りのプレゼントなどをコープふくしまに贈呈。



被災地視察の様子。まだまだ復興とは遠い現状に、息をのむ人も。

## 放射線量の低いところで、ゆっくりしてほしい



「雪だ！」靴がぐつしよりぬれても、遊び続ける子どもたち。



参加者からの線量計に関する質問に、丁寧に答える福島大学西崎伸子准教授。

12月17・18日、福島県生協連と福島大学災害復興研究所が主催の「福島の子どもの保養プロジェクト」が、放射線量の低い「磐梯高原リゾート・インぼなり」にて行なわれ、25組79人の親子が楽しい時間を過ごしました。このプロジェクトは、日本生協連の「つなごろうCO・OPアクションくらし応援募金」にて全国の生協・組合員から集まった募金やユニセフ協会からの募金を活用し行なわれています。

普段、なかなか外で思い切り遊ぶことができない子どもたちは、雪遊びをして、大はしゃぎでした。また、希望者には個人線量計の貸し出しも行なわれました。参加した野村のぞみさんは「線量が低いところに行けるだけで本当にありがたいです」と話していました。

このプロジェクトは、1/7より毎週末に行なわれます。保養参加への申し込みは、福島県生協連HPより可能です。  
<http://fukushima.kenren-coop.jp/>

### 【一言メッセージ】

こちらのコーナーは、そのとき、そのときの思いを、読者の皆さんにつぶやいていただくコーナーです。あなたの「つぶやき」お待ちしております。[action@coop-book.jp](mailto:action@coop-book.jp)

## ◆リレー寄稿

復興活動を生協の事業と  
連動して



みやぎ生協  
専務理事 宮本 弘氏

皆さんからのご支援に心から感謝申し上げます。みやぎ生協では、地域の組合員が中心となり、被災者に寄り添いながら「心」を癒すお茶会の開催などのボランティア活動を被災地各地で定期的に行っています。また生協事業の柱である「食」をキーワードに地域の産業の復興をめざす「食のみやぎ復興ネットワーク」を結成し、商品開発や普及活動を多くの生産者・メーカーと協力してすすめています。同時に買い物支援のための移動販売や仮設住宅への灯油プレゼントなども行なっています。

震災から10カ月が経過しても復興はまだまだこれからです。

私たちは、被災地の生協として、復興の取り組みを生協の「事業」「運動」そのものとして、継続し続けていく決意ですので、引き続きご支援をお願いします。

## 復旧・復興へ生産者・組合員・職員が心を一つに

12月7日、「第30回宮城県めぐみ野交流集会」が仙台国際センターで開催され、約1,300人が参加しました。これは生産者や組合員らが共に学び、交流を深める目的で毎年行なわれ、今回は震災からの復旧・復興が主なテーマでした。集会では、被災した生産者への支援募金の贈呈の他、生産者・みやぎ生協職員・組合員それぞれの立場から実践報告が行なわれました。みやぎ生協共同購入南支部チーフの曾田洋子さんは、津波の爪あとが残る中、宮城県漁協志津川支所のカキ生産者が「組合員さんにおいしいカキを食べてもらいたい」と奮闘する姿に、「生協職員として頑張らねば」と感じたそうです。

交流会参加者は「人の温かさを感じる交流会だった」「復興へと力強く取り組む報告に心を打たれた」との感想を述べ、復興へ決意と連帯を新たにしました。



被害の大きかった生産者団体へ、支援募金が贈呈された。



生産者からは、震災からの復興に対する報告があった。

## 大分で「ふくしまっ子応援プロジェクト」開催



子どもたちにスケジュールを説明。3日目は、遊園地で思いっきり遊んだ。



ふくしまっ子、大集合。

12月25日から3泊4日の日程で福島県南相馬市の小学5年生30人を大分県に招く「ふくしまっ子応援プロジェクト」が開催されました。このプロジェクトは、大分県ボランティア・市民活動センターを中心とした県内9団体の協力により、屋外で遊べない福島の子どもたちに楽しい時間を過ごしてもらうのが目的です。

きっかけは、8月の「コープおおいた・コープふくしま復興支援交流会」でした（本誌第2号参照）。大分県内で被災地支援の輪を広げようと組合員、取引先、支援団体などから幅広く参加を募ったこの交流会に同センター事務局の高橋賢一さんが参加し、福島の実情を知ったことがプロジェクトにつながりました。

コープおおいたの青木博範専務は、「自分たちだけでは限界があるが、より大きな支援のきっかけになることはできる。その思いが形になり始めました」と手えを口にしていました。

### 【一言メッセージ】

- ・被災した職員も組合員も、率先してボランティアしている姿がすごい。（神戸・Aさん）
- ・「不安だ」という言葉を口に出してはいけない雰囲気、県内にはあります。（福島・Nさん）

## ◆みやぎ生協

子どもたちに支援物資を



11月23日の勤労感謝の日には、みやぎ生協共同購入（宅配）配送担当の鈴木由美さんに、子どもたちより感謝状が手渡されました。みやぎ生協では、「南三陸ホテル観洋託児所マリパル」（宮城県）に通う子どもたちに、震災後、粉ミルクやパン、水、そして使い捨てカイロなどの支援物資を届けてきました。

## ◆コープネット

商品を通じて支援したい

コープネットでは、「がんばろう岩手 どり焼き」を、11月に販売。1パック440円のうち40円を募金しました。これは、多くの組合員から「商品の購入を通じ復興の支援がしたい」という声があり、いわて生協の商品である「がんばろう！ 岩手」の文字入りどり焼きを作っている「北緯四十度のまち(株)」に、同様の刻印入りどり焼きの製造を依頼しました。2月に再度、宅配にて販売予定です。



## &lt;復興関連情報一覧&gt;

## 【岩手県】

## いわて生協

- 赤武酒造「浜娘」を組合員が店内でおすすめ(12/15)
- コンサート(12/17・18)
- クリスマスケーキ配達
- 仮設住宅18カ所で炊き出し(12/29・30、1/7・8)
- 遠野まごころネット協同企画、大槌町・陸前高田市へ灯油支援
- 岩手郡コープ「わかめ料理レシピ」の入賞6作決定
- 首長懇談会で放射能問題への対策強化を要請
- 被災者がほっとできる場をつくるための補助制度(代表者が組合員の5人以上のサークルに最大3,000円・月4回まで補助)
- 「安否確認カード暫定版」作成・配布
- 被災地勤務者への慰労、支援
- ふれあいサロンボランティア募集説明会(花巻・北上・一関・釜石・宮古・けせん、1/10、11、12、19、20)
- 内陸避難者対象の「ふれあいサロン」実施(ベルフ青山、1/19)

## 岩手県生協連

- 陸前高田仮設住宅4カ所でクリスマスメニューなどの炊き出し(12/22・23・27、いわて食・農ネット共催)

## 【宮城県】

## みやぎ生協

- 「食のみやぎ復興ネットワーク」プロジェクト参加が161団体に(12/10現在)
- 亘理郡山元町浅生原の仮設住宅地に共同購入ステーション開設(12/15)
- 夕食宅配サービス仙台市宮城野区エリアへの拡大(12/11～)

## 宮城県生協連

- 「どうする被災地の地域包括ケア」(12/11、介護ネットみやぎ主催)

## 【福島県】

## コープふくしま

- 陰膳方式にて、実際の食事に含まれる放射性物質質量測定

## 福島県生協連

- 定例理事会(ベラルーシ・ウクライナ調査団中間報告とコープふくしま除染活動報告、12/15)
- 福島の子ども保養プロジェクト(1月より毎週末開催)
- コープあおもり学習会(1/7、1/18)
- コープながの学習会(1/18)

## 【茨城県】

## 茨城県生協連

- 宮城ボランティアバス運行(参加40人、12/17)

## 【パルシステム連合会】

- 会津若松市内の仮設住宅への買い物・雪かき支援

## ◎生協の震災復興支援の取り組み情報、一言メッセージ募集!!

皆さまの地域での生協の復興支援に関する取り組み情報や、伝えたい一言メッセージをお寄せ下さい。情報提供用専用メールアドレス [action@coop-book.jp](mailto:action@coop-book.jp)



つなごろう CO・OPアクション情報  
(隔週発行・次回1月25日発行予定)

発行 日本生活協同組合連合会(会員支援本部出版部)  
〒150-8913 東京都渋谷区渋谷3-29-8 コーププラザ11F  
Tel: 03-5778-8183 / Fax: 03-5778-8051  
[action@coop-book.jp](mailto:action@coop-book.jp)

## 【一言メッセージ】

- ・ボランティアの方々には足しげく集会所に通ってもらい、居住者の話を聞いてもらうことをお願いしています。(岩手・Tさん)